

## 「日本企業がデトロイト市の破綻に対する取り組みを支援」

ミシガン州にデトロイト日本商工会という、ミシガン州に進出している日本企業が会員となって構成された組織があることをご存知でしょうか。1973年（昭和48年）に設立され、日米の取り組みに様々な支援を行っています。滋賀県が友好親善派遣使節団でお世話になっているミシガン滋賀姉妹県委員会にも補助金をいただいています。11月6日付けのデトロイトニュース紙に、「日本企業がデトロイト市の破綻に対する取り組みを支援」という記事がありました。（Tom Greenwood, the Detroit News）冒頭に紹介しました、デトロイト日本商工会の会員企業による支援の記事でした。

デトロイト日本商工会の会員21社が合計2,167,000ドル（2億3,839千円）の寄付をデトロイト美術館に行ったという内容で、このうち75%はグラッド・バーゲンと呼ばれるデトロイト美術館への寄付となり、25%が新しいギャラリーで日本関連芸術作品の収集に当てられるとのことでした。

デトロイト日本商工会の会長の杉光氏（デンソー・インターナショナル・アメリカ会長）は「私達の大切な活動の一つがアメリカ市民として地域社会に貢献することです。アメリカと日本の友好関係、相互理解が深まっていくような、デトロイト美術館での日本ギャラリーの取り組みを楽しみにしています。」と述べておられます。

デトロイト美術館はデトロイト市に対して1億ドル（110億円）を支出するという公約を掲げていましたが、その公約の達成にまた一歩近づくこととなります。そして、このことはデトロイト市の復興を支援し、年金生活者の救済につながり、そしてデトロイト美術館の美術品を守っていくことにつながります。

去る8月に、トヨタ自動車が100万ドル（1億1,000万円）の寄付を表明したことに続いて、デンソー・インターナショナル・アメリカを初めとする日本企業21社からの支援があったというニュースは、我々日本人にとりましても、大変うれしいニュースです。

今年8月にミシガン滋賀友好親善派遣使節団に参加され、滋賀県に戻られてから、デトロイト美術館に関心を持ち個人的に調べておられる方がおられると伺いました。私も何かわかることがあれば、と調べている中で出会った記事でしたので紹介させていただきました。

経済だけではなく、芸術の力もデトロイトの再生を後押ししてくれているのだと思います。

（本文中の為替レートは、\$1=110円で計算しています。）